

第一條

三百七十四

獸類疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者
管理人又ハ獸醫ハ直ニ其旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長特別市制ヲ施スル
市ニ於テハ區長市制
ハ區長又ハ之ニ準スヘキ者所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類
撲殺シタルトキ亦同シ

第三條

獸類疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者亦ハ管理
人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖錮シ若ハ
健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條

牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛羊及狂犬病ニ罹リタル犬
ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直
ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫

委員ニ於テ之ニ撲殺シ及病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル物品ヲ燒棄埋却シ

若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條

地方長官東京府ハ警視廳
監以下之ニ依リ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑
定ノ爲割檢ニ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽傳染性胸膜肺炎水虎
列拉家羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第六條

所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサ

ルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條

病性鑑定ニ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外計ノ法律ニ依リ撲殺シ
又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於警察官
及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ割檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又

ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第八條

所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病
毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ
所有者管理人車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ
獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繫留シタル場所汽車船舶等ニ消毒ヲ
行フヘシ
所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長
船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒
棄埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條

此ノ法律ニ依リ撲殺ニ罹リ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍
體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但
シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條

第四條第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ三人以

上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價シシムルコトヲ得

一 牛疫鼻疽及皮疽傳染性胸膜肺炎豕虎列刺豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類 評價額三分ノ一

二 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類評價額五分ノ三

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊評價額五分ノ四

四 燒棄又ハ埋却シタル物品 評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓第三ノ場合ニ於テハ一頭貳百圓第四ノ場合ニ於テハ總計拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 此法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金ヲ下附セス

一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病汚染ノ疑アル物品

四 第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五 第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ニ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入往來并病汚染ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ同獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ヘ

第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ

検査ヲ行フコトヲ得

第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ檢疫ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫府縣市町村及一個人ノ負擔トス

第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者第五條ノ命令ニ違背シタル者及其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條ノ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓

第三百七十七

以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條 第七條第八條第一項第二項第九條ニ違背シタル者及第十三條

ノ命令ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑

法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條 第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ム

ルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜

傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

車稅規則

明治八年二月二十日
布告第二十七號

第一則

一馬車二匹立以上

一箇年稅金三圓

一 同 一匹立

一箇年稅金貳圓

一 荷積馬車

一箇年稅金壹圓

一 人力車二人乘

一箇年稅金壹圓

一 同 一人乘

一箇年稅金壹圓

一 牛車

一箇年稅金壹圓

一 荷積大七六八車

一箇年稅金五拾錢

一 荷積中小車但大六以下

第二則

一 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ニ更ニ檢印可申受事

第三則

一 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七

月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ

可相續事十一年第四號布告ニ依リ消滅ニ係ルヲ以テ但書ヲ除ク

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事
第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

附則 明治二十一年二月二十四日 勅令第七號

北海道廳管内一限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛馬荷積大七次入車荷積中小車ハ當分ノ内稅金ヲ免除ス

● 危害品積込規則 明治六年八月 第二百九十二號布告

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失シ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事
一 尋常ノ物品トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品有之ト見受

候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラズ何地ヲ論セズ直チニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致ナレモ其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事 但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保証人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ港着ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事 但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生ズル荷主ノ損失ヲ辨償スルコト不及事

一 船長及運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴ヘ出サ
ル時ハ金貳百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

● 檢便停船規則 明治十二年七月 第二十七號布告
明治十二年七月二十八號布告 港内刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ

檢疫停船規則 改稱候條此旨布告候事

(別冊)

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカ爲メ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ命スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本人又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ
第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺憾ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所並ニ停留セラレタル人ノ爲メ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船、各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前

検査ノ爲メ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但シ右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又ハ所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ船長ハ檢疫官吏ノ求ニ應ジ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルルルル又ハ他ノ事項ニ依テ病毒ニ感染シタル恐アルトキハ其検査ヲ受クヘシ
檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閱シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハストテ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及ヒ其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海ハ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ証明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルルル該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘシ
軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ニテ調印セリ書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルルルハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列拉病若クハ疑似症ニ罹リタリ者ナシト雖モ有病ノ港又ハ其疑ハル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直チニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル港ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速カニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速カニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル電艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸

セシトナク又ハ病毒感染ノ恐レナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシトナキ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ滿止スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反覆施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサルハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺體ノ處置未タ済マサルトキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係

アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸
ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニ
テモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒
法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ル可キ人
トノ外都テ船内ノ人員ハ其ノ人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒
法ヲ行フヘシ船内ニ残りタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交
代シテ陸上ニアル適宜ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港
ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ
來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スル
コトヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設
クヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルコトヲ得ヘシ
病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ
於テ定メタル方法ニ從フヘシ
避病院ニ關係ナキモ醫業ニ違シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ヒニ

由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス
第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキハ停
留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クコトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛
生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サル、コトアルヘ
シ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎
列刺ノ原因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルハ其患者ハ
病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ診斷スルニ充分ノ時間ヲ終
ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢
疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘ
シ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ
途中ニ檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ
検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、
毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フヘシ
又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルハ該船又ハ其乗込

人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルモハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速カニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲ爲サ、ルモハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遅延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノモハ此限ニ在ラズ其場合ニ於テハ其遅延シタルノ事故終リタルモ検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方検査局ヨリ指圖シタル消毒法ハ検査官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命ジタル時ニ成ルヘク二十四時間ニ完了シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 検査停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タルモハ検査官ハ地方検査局ニテ必要ト判断スル丈ノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムハシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方検査局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危険ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルモハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スヲ得ヘシ其場合ニ當リテ地方検査局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方検査局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用途ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハズ地方検査局ノ許可ヲシテ往クヲ許サズ

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎ニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用途又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ムモハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコアルヘシ
此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ

以テ之ヲ要求スヘシ

但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

●虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 明治十五年六月第三十一號布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非サレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ

但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スヲ得 十八年第二十九號布告ニテ追加

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ

其死者ハ 若シ該故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ 地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ

●内國船難破及漂流物取扱規則 明治八年四月第六十六號布告

内國船難破及漂流物取扱規則別冊之通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

(別冊)

内國船難破及漂流物取扱規則

- 第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ個條ニ從テ取扱フヘシ
- 第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内チ以テ便宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ
- 第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見付次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ
- 但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之ノ内ハ張リニ船中ノ物品ヲ積ミ移スヘカラス
- 第四條 浦役人ハ難船ヲ見付或ハ其報知ヲ得ルルハ速カニ其乗組人及ヒ船中ノ荷物ノ救済保安スルノ手立ヲ盡スヘシ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鋪打鳴ラシ人数ヲ呼聚メ且ツ近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ
- 第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛ラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムヘシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最モ安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ

夫々其手數ヲ爲シ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條 難破船ヲ保安スル者ハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハスヘシ

- 第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一
- 第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一
- 第三 川面ニ漂流スル物品ハ其十分一
- 第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小船現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ之レニ就テ盡力シタル證跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡スヘカラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入り水溜レ等爲メニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ

モ二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ニ爲スヲ得ヘシ
但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケ
ノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニ之ヲ爲シ且ツ其物品ノ目錄及
ヒ買人ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄テ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂タルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル
諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲メニ取設グル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分
及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 左ニ掲載シタル諸天費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出
サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナスヘシ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲メニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ官廳其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚費

第四 救助人溺死シタルキ其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スルキ治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必用品代料
又ハ歸郷旅費等ノ貸遣ハシタルキハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書

中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシムヘシ
第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ（船体皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損
害ヲ生シ船主立會決議ヲ要スル等ノ
事）現場ノ救助方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官

員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其
他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救
助ノ爲メニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故

ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作
リ浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出スヘシ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ
死傷ニ至ル者アルキハ必ニ管廳ヘ届出ツヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當

ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタルルルハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書ニ通テ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通浦役人ニ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノルルハ其内一名ハ必ラズ他村ヨリ出スヘシ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照ラシテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速ニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添ヘテ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之ルハ早速下ケ渡スヘシ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスシテ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡スヘシ
第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ルルル

ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照ラシ各々符合スルルルハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ以テ管廳ヘ届出ヘシ但シ浦證文中左ノ個條ヲ載スヘシ

第一 難破ニ逢ヒタル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二 破損ノ個所

第三 打荷ノ種類個數並他ノ積荷ノ種類

第四 船名及ヒ現狀ノ番號並ニ船主船長ノ本貫苗字名乗組人數

第五 打荷シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之ルハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助スヘシ且ツ其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管廳ヘ報知スヘシ

第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ルヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ
但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フヘシ

第二十四條 貨米及其他 官物 積入候船難破ニ及候節現場救助ヲ除

クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受クヘシ

但シ郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱ヘ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五拾錢ヨリ多カラス十錢

ヨリ少ナカラサル者トス難船ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル

片ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄ハ智ノ前知スヘカラス人カノ豫防スヘカラスナルニ出ルヲ瞭然明證スルトキハ此限ニ在ラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈

没ト偽リ窃ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ窃盜或ハ

掠奪スル者又ハ其窃盜掠奪ニ與スル者又ハ其本犯ヲ隱匿スル者又ハ窃盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照ラシテ處分スヘシ

以下漂着ノ部

第二十九條 凡ソ原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂流船ヲ見

附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出ヘシ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ

書記シ漂着物ハ其品名個數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地

ノ揭示場及ヒ船改所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價貳拾圓以上ト思量シ或ハ貳拾圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル片ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ稅關ヘ報告シテ張出ヲ爲シ或ハ新聞紙ニ載セテ

公告スヘシ

第三十一條 漂着物ノ特主知レタルトキハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事

但シ持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得ヘシ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタルトキハ官ニ收メシ半分ハ下戻ス

第三十二條 乘組人無之漂着船ノ持主知レタルキハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡ソ漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ奥印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却スヘシ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタシ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置キ直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣

ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシムヘシ
第三十六條 凡ソ漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分スヘシ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クルキハ此規則ノ第十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣ハスヘシ
(明治十年三月第二十九號布告ニテ改正セラレ)

第三十八條 前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ
(明治十一年十月第三十二號布告ニテ追加セラレ)

第一條 航路標識ノ條例 勅令第六十九號
航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得
此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
從來私設ノ航路標識ハ免許年間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルト
キハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得
政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二
項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮
スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ
燈先若クハ番號ヲ誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下
ノ重禁錮ニ處シ又ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ
之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●度量衡法 明治三十四年三月二十三日 法律第三號

第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金「イリヤウ」合金製ノ棒及分銅トス其ノ
棒ノ面ニ記シタル標線ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ニ
尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ
度

毛尺ノ萬分ノ一 厘尺ノ千分ノ一 分尺ノ百分ノ一 寸尺ノ十分ノ一

尺 間六尺 町三百六十尺(六十間) 里一萬二千六百六十尺(三十六町)

地積 畝 歩或ハ坪六尺平方 畝三十歩

量 段三百歩 町三千歩 合歩ノ十分ノ一 升六方四千八百二十七立方分

斗十升 石百升

衡 毛貫ノ百万分ノ一 厘貫ノ十萬分ノ一 分貫ノ萬分ノ一 匁貫ノ千分ノ一

貫 斤百六十匁

第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用ヰルコトヲ得
鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一
寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス

第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノト

本條以下ノ規定ヲ適用ス

毛厘分尺寸丈間町里地積合勺

メートル
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ一)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ三)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ四)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ五)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ六)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ七)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ八)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ九)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十一)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十二)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十三)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十四)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十五)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十六)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十七)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十八)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ十九)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十一)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十二)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十三)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十四)
 〇、〇〇〇〇三
 (三万三千分ノ二十五)

「ミリメートル」 〇、〇〇〇三〇〇
 「センチメートル」 〇、〇〇三三〇〇
 「デシメートル」 〇、〇三三〇〇〇
 「メートル」 三、三三〇〇〇〇
 「デカメートル」 三三、三〇〇〇〇〇
 「ヘクトメートル」 三三三、〇〇〇〇〇〇
 「キロメートル」 三三三〇、〇〇〇〇〇〇

「センチアール」 〇、三〇二五〇〇
 「アール」 三〇、二五〇〇〇〇

歩畝段町量

勺合升斗石

〇、〇三三〇六
 (三十分ノ一)
 〇、〇三三〇四
 (三十分ノ二)
 〇、〇三三〇二
 (三十分ノ三)
 〇、〇三三〇〇
 (三十分ノ四)
 〇、〇三二九九
 (三十分ノ五)
 〇、〇三二九七
 (三十分ノ六)
 〇、〇三二九五
 (三十分ノ七)
 〇、〇三二九三
 (三十分ノ八)
 〇、〇三二九一
 (三十分ノ九)
 〇、〇三二八九
 (三十分ノ十)
 〇、〇三二八七
 (三十分ノ十一)
 〇、〇三二八五
 (三十分ノ十二)
 〇、〇三二八三
 (三十分ノ十三)
 〇、〇三二八一
 (三十分ノ十四)
 〇、〇三二七九
 (三十分ノ十五)
 〇、〇三二七七
 (三十分ノ十六)
 〇、〇三二七五
 (三十分ノ十七)
 〇、〇三二七三
 (三十分ノ十八)
 〇、〇三二七一
 (三十分ノ十九)
 〇、〇三二六九
 (三十分ノ二十)

ヘクタール 三〇二五、〇〇〇〇〇

「センチリットル」 〇、〇〇五五四
 「デシリットル」 〇、〇〇五五四
 「リットル」 〇、〇五五四
 「デカリットル」 五、五四
 「ヘクトリットル」 五五四、〇

毛	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇
厘	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇
分	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇
匁	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇
貫	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇
斤	〇、〇〇三	三、七五〇	三、七五〇	六〇〇、〇〇〇

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス

農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器ニ組テ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ

第八條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ

經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ
製作ノ免許ヲ得ル者ハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得
免許ニ關スル年限身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ

使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ
營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修覆シタルトキ及

定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ
官廳、分署、官立、公立ノ諸建設場又ハ養院、病院其ノ他之ニ類スル

建設場ニ於テ賣買授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス
地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器 取締

第十二條 度量衡器ノ製作者、修覆者販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ

當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證票ヲ携帶シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修覆シテ販賣シタル者ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
附 則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受ケルコトヲ要セズ本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之

ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ

本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

●測量標規則

明治二十一年七月 勅令第五十八號

朕測量標規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

測量標規則

第一條 陸地測量部及水路部ニ於テ測量標設置ノ爲メ敷地ヲ要スルトキハ官有地第三種第一項ノ土地ニ在テハ其所轄廳ニ通知スヘシ
 宅地ニ非サル民有地ニ在テハ之ヲ買上ケ又ハ相當ノ借地料ヲ給シ一時之ヲ借入ルヘシ其所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得、但測量標敷地ヲ買上ケントスルニ當リ其所有者借地料ヲ要セズ永遠賃地ト爲サンコトヲ望ムトキハ格別トス

第二條 測量主任官ハ測量標設置ノ場所ヲ測定シ測旗及假杭ヲ樹立スル爲メ必要ナルトキハ前條ニ掲クル官有地又ハ民有地ニシテ牆垣籬柵等ノ設ケアルモ之ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ
 所轄廳ニ有者又ハ管理人ノ所在遠隔ニシテ其證票ヲ示ス能ハサルトキハ施行ノ後直ニ之ヲ通知スヘシ
 測量施行ノ爲メ規標ヲ樹梢ニ附設スル場合ニ於テハ宅地内ト雖モ之ヲ施行スルコトヲ得

第三條 測量施行ノ際障礙アル竹木ハ第一條ニ掲クル民有地ニ在テハ相當ノ代價ヲ給シ之ヲ伐除スルコトヲ得

第四條 測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等ヲ毀壞シ又ハ植物菓物ヲ損害シタル

トキハ陸地測量部及水路部ニ於テ之ヲ賠償スルモノトス但其所有者ハ三十日以内ニ申出ヘシ

第五條 測量標ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重懲罰ニ處シ又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 測量及假杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 疎虞懈怠ニ由リ測量標及測旗假杭ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ獸類ヲ繫キ又ハ繩索ノ類ヲ懸ケ又ハ貼紙シ戲書シ又ハ登攀其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●北海道ニ徵兵令施行ノ件明治廿九年九月勅令第百二十六号
 第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩、ノ

四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス
 明治三十一年一月一日ヨリ天塩、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ七ヶ國ニ徵兵令ヲ施行ス明治三十年七月勅令第(二百五十七号ニテ追加)

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五ヶ年ニ滿ツリ年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

第三條 屯田兵現役豫備役下士兵卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

第四條 從來徵兵令ノ施行セル函館、江差、福山、ハ六ヶ國ニ適用スルノ限

明治三十年七月勅令第(二百五十七号ニテ改正)

附 則

第三條ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス(全上ニテ)

●沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徴兵令施行ノ件(明治三十年七月廿八日)

沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五ヶ年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但越籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

●古物商取締法(明治廿八年三月二日)

(法律第十三號)

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サルトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限り其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二 刀劔又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危険ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物兩物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ買受又ハ交換スルコトヲ得但住所氏名ノ詳カナル者其証人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニアラサレハ是ヲ買受又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直

チニ消滅法ヲ施サシム其命ニ從ハサルトキハ是ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿、檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

一 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第

十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任

ス 第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定

ム 第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ

附 則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ
施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ

日ヨリ廢止ス

●古物商取締法細則 明治二十八年七月
內務省令第八號

第一條 古物商取締法及此細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於

テハ警視總監北海道廳長官其他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監北海道廳長官府縣以下ニニ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警

察分署長島司地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業禁止若クハ停

止シ又ハ營業ヲ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニアラズ

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルキハ

古物商取締法及此細則ヲ遵守スヘシ

吳服商 金物商 袋物商 小間物商

籠甲商 時計商 飾 商 書籍商

其他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルキハ營業主自ラ之ヲ管理ス

ルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖移轉營業者及後見人ノ族籍住

所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出

ヘシ但死亡者非戸主ナルキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ後見人ニ因リ

テ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其後見ニ關シ市町

村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條、届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ譲受タル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交換セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルニハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルハ五日以内ニ其事由ヲ證明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ家屬又ハ同居ノ雇人ニ限り行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルヲ得
此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムルニ鑑札ハ他人ニ貸與スルヲ得ス

第九條 古物商市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ「規約書ニハ開閉ノ時間場所及ヒ營業スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ規約書ノ變更ハ其都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商露店及市場ノ取引ニ付テハ別ニ帳簿ノ規定ヲ要スルハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ糶賣ヲ爲サントスルモノハ豫メ其日時并場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ノ露店途上其他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取り譲受ケ又ハ交換スルヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ヲ交換賣買スルヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十條及第十三條ニ違反シタル者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルヲ得

◎質屋取締法 明治二十八年三月十日 法律第十四號

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ
第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ノ質ニ取ラムトスルトキハ質屋主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質主ニ交付スヘシ
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス
前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直

ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スユトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附

記スヘシ品觸到達以後六個月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ
質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ
第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ
物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ
依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ
得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領證證書ヲ交付スヘシ
第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被
害者ニ還付スルコトヲ得
若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官没スルコトヲ
得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受
クヘシ

第十八條 質屋法律ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ
營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得
禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ
第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ

又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得 停止ノ處分ヲ受ケタル者其
期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成
立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分
ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得
第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰
金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ
毀損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者
第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及
第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者
ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
附 則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但沖繩縣ニ施行セズ

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係レ質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●質屋取締法細則 明治二十八年七月 內務省令第九號

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
警視總監、北海道廳長官、府縣東京府ヲ除ク知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ

在テス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見人ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ニ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルコトハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戶長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿種類及其ノ記載方ハ應府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其製方及様式ハ應府縣令ヲ以テ定ムルコト

ヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條 違背シタル者ハ二

圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此規則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事

ハ必要ナリ命令ヲ發スルコトヲ得

公證人規則 明治十九年八月 法律第三號

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑托ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ

職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作

ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ

有セス

第三條 公證人ノ作りタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁

判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴ア

ルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルト

キハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司

法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居室ニ役場ヲ設ケ役場ニ於

テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ

認可ヲ受ク可シ已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於

テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院始審裁判所長ノ監督ヲ受クル

モノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但

受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒ

タルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑托ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒

ミタルトキ囑托人ノ求メアレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告

スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏

名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出サ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタ

ルトキハ其書類ハ公正ノ効チ有セス

第十一條 公證人已ムテ得ル事故アリテ職務チ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ其始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル野紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出ツ可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ニ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラス

第十七條 公證人ハ其取扱ル公證事件ヲ漏洩ス可カラス

第二章 公證人ノ撰任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ二百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若ノハ停止中ノ者
第二 盜罪詐偽罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ヲ寫テ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官制法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書

代理人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス
第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者

ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り而識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ証明書又ハ公證人氏名ヲ知り而識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ証セシム可シ之ニ違イタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生
第二 第二十條ニ掲ケタル者

第二十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族

籍住所職業氏名年齢

第三

囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ証書ヲ所持シタルコト及
其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四

郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ証シタルトキハ其旨又証人ヲ要シタ
ルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五

証書ヲ作りシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セズ又ハ年月日ノ記
入ヲ遺脱シタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セズ

第三十一條

証書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス
接続ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接続ス可シ

數量并ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ
可シ

第三十二條

度量衡貨幣及名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス
可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサ
ルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得ス

第三十三條

証書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ
爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人并ニ關係人捺印ス

可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス
且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人

並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有
セズ

第三十四條

証書ヲ作りタルトキハ關係人ニ讀聞カセ其旨ヲ記入シ然ル
後ニ公證人並ニ關係人署名捺印シ公證人ハ其治安裁判所管内某地住所

ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セズ
若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可
シ之ニ違イタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セズ

第三十五條

証書ノ綴目合目ニハ公證人并ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條

公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ証書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬
他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違イタルトキハ其証書ハ公正ノ効

ヲ有セズ

第三十七條

公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ
爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付証書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違

イタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セズ

第三十八條 公証人ハ自己親屬立會人又ハ証人ノ爲ニ利益アル條件ヲ証書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公証人ハ証書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其証書ハ公正ノ効チ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其証書ノ寫ヲ其原本ニ連續ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公証人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 証書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連續スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公証人并ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ証券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價証券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違イタルトキハ正本ノ効チ用セス
正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシテ原本ヲ作り後ニ作りタルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違イタルトキハ其効チ有セス

裁判官ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ其原本ニ連續ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルルキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ年月日及場所ヲ記シ公証人並義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公証人及他ノ公証人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ其効チ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキハ管轄始審裁判

所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 敷事件ノ列記シ敷人各自ニ關係ヲ異ニスル証書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得
正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラズ又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラズ之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルコトヲサレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公証人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スコキコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公証人署名捺印ス可シ之ニ違イタルトキハ其効チ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 証書ノ謄本及其附屬書類ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡スコ

第十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公証人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公証人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公証人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ノ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公証人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後

任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタル片ハ書類ノ引繼テ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲シ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ兼任者ハ停職者ノ役場於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依リ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條 前任者ノ作リタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ
本任者ノ作リタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作り

タルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外証券印紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ全額ニ拘ハラヌ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公証人此規則ヲ犯シタルトキハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下 過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタルトキ

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ贖聞カセシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サ

、リシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公証人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公証人停職ニ當ル所爲三度ニ及ビタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保証金ヲ差入サルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公証人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

●富籤賣買者等處分 明治十五年五月 第二十五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

●遺失物取扱規則 明治九年四月 第五十六號布告

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條 凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラヌ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス

第二條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキモハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成ニ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但シ得者ヨリ其返還ヲ得ルモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且ツ得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ

多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ等フキハ官之ヲ評
價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ルヘシ
官之ヲ其主ニ還シ止メ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ
其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ
掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム(明治十四年第二號律
告ニテ但書改正ス)

第七條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラザ
ルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ
處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得ス
ト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ
第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照ラシテ處分
ス

第九條 凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送
ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍

ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ
如シ

第十條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用
ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外部問ハス遺失物ヲ得レハ速
カニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡ソ一切隱禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒
ス

第十三條 凡ソ公私債証書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得
スト雖モ物主ハ得者ニ費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全
ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ証明スルニ冒認シテ返還セサル者
ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

●鐵道犯罪罰例 明治六年三月 第一號律告

壬申第四百四十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相違候事
(別紙)

鐵道犯罪罰例

- 第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中酔ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ廿五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルモ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ禁錮ヲ禁獄ト改ム)
- 第二條 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ改正)
- 第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス
- 第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス
- 第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス
- 第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ禁錮ヲ禁獄ト改ム)
- 第七條 規則第九條ニ記セル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ禁錮ヲ禁獄ト改ム)
- 第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス
- 第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ改正)

内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告ニテ改正)

- 第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス
 - 第十一條 規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品其書外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物一噸千七百斤ヲ云毎ニ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス一噸以下ハ十圓以内九一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス(十二年第十二號布告ニテ改正)
 - 第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ
- 但其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フモハ法官ニ於テ追徴スヘシ
- 裁判所呼出遲不參罰例明治十年一月第五號布告
- 凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スルモハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限迄ニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルモハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ニ處スヘシ
- 墓地及埋葬取締規則違犯者處分明治十七年十月第八十二號達
- 今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

●參照

○關係法令

大政官第二十五號布達明治十七年十月

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニアラサレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ニナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得シテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ニ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○内務省乙第四十號達明治十七年十一月

本年第二十五號布達第八號ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但已ムヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ニ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモ
ノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル
地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一
丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラスルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ノ百二十間以上ニシテ風
上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍
ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キ
モノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場
ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記
スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受

ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡證書ヲ添
ヘテ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セ
ント欲スルトキハ醫師ノ檢案書ヲ差用シ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産証ヲ差出シ

區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡証書寫
ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書証書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認
許証ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ每三ヶ
月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

明治三十年十二月二十七日印刷

同三十一年一月六日發行

大阪市西區京町堀通三丁目
三番九番邸

大垣榮太郎

印刷

大阪市南區鰻谷東之町百七拾五番邸
周摺社支店

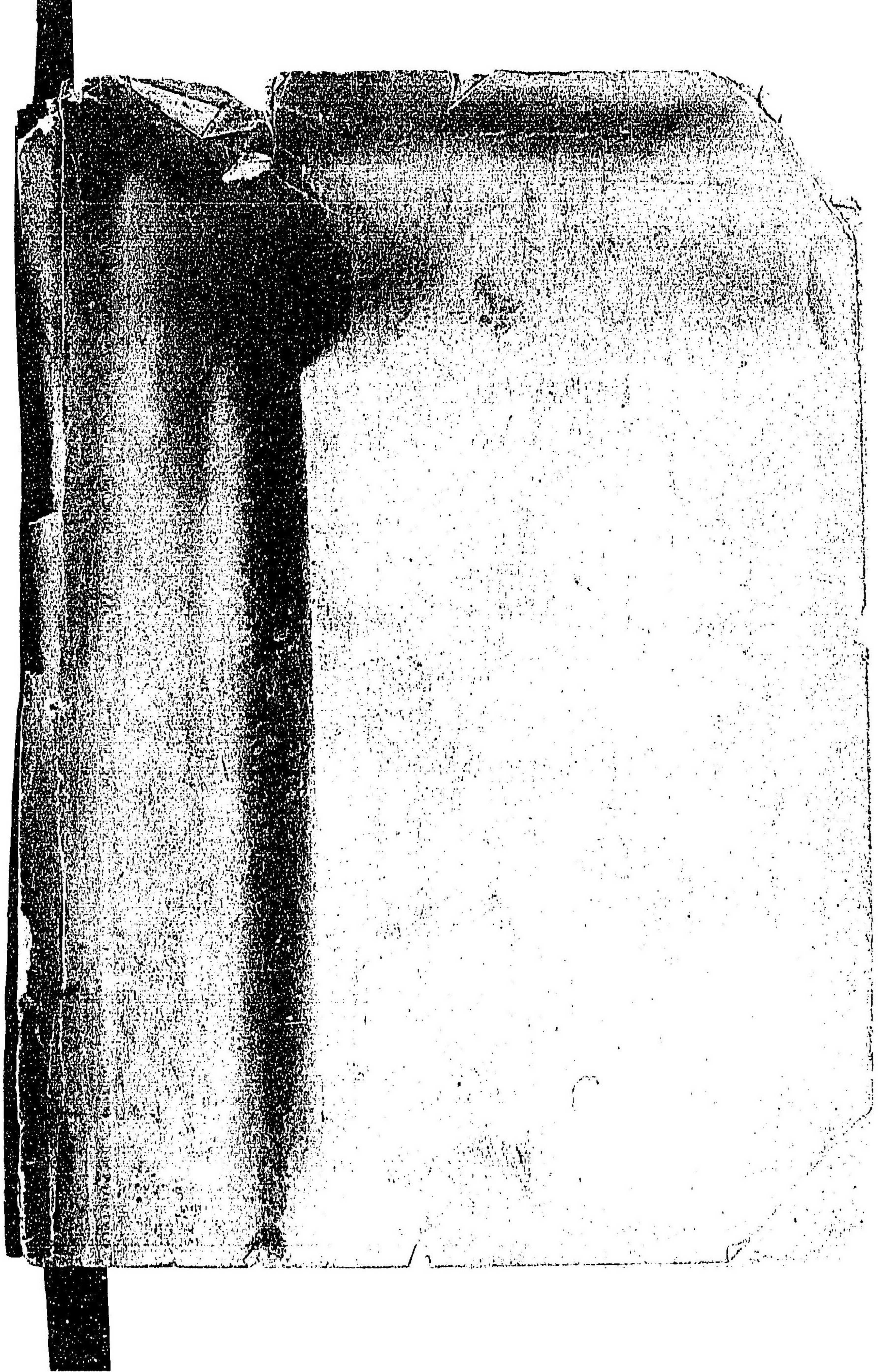
印刷者

前田菊松

大阪市南區鰻谷東之町

發行所

周摺合資會社印刷部



禁電子式複写

大阪

法令館藏版

現行法令規則全書

030954-000-3

CZ-5-0147

現行法令規則全書

大垣 栄太郎 / 編

M31

BBC-0311

